

的な訪問看護ステーションの第一号とされる。現在は酒井さんのように看護師資格などを所持した四人のスタッフが、在宅療養の患者十二人の自宅を電動自転車で行き巡回している。

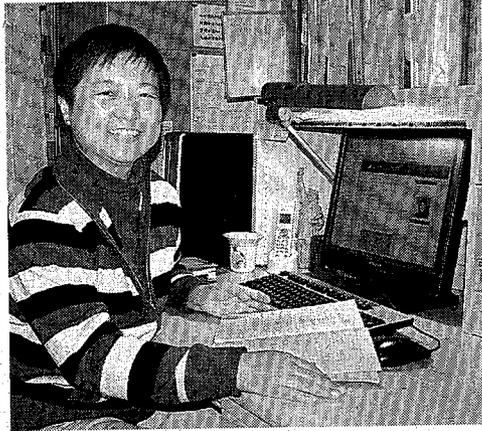
# 最前線

ひと

東京都渋谷区の笹塚・幡ヶ谷地区の商店街に働きかけ、一九九九年に開設した「ささはたドットコム」は一日千人が閲覧する人気の地域情報サイト。インターネット業界ではちょっと知られた存在だが、一年半にわたる乳がん治療の体験を経て、新たなビジネスを手がけようとしている。がん患者向けの生活用品のネット通販ショップだ。

がんになったのは二度目。最初は九年前、初期の子宮頸(けい)がんだった。以来、定期的に検査を受けていたのに、今回は初期ではなかった。「悔しくて悔しくて……」。数カ月間、満足に眠れず、急性ストレス障害と診断された。精神的に追いつめられた

アンカーコム代表取締役 長坂 由佳氏(45)



## 自らの乳がん体験 ネットビジネスに

った。「闘病に必要なものを一カ所でする通販サイトがあったらいいのに」。その思いが、新事業のアイデアにつながった。「治療が終わったらずぐに始めよう」

中での入院の準備は大変だった。脱着しやすい前あきのTシャツ。パソコンや貴重品をしまえるカギ付きの女性用バッグ。どこにもありません。抗がん剤の投与が始まって髪が抜けると、今度はかつらや帽子を探し回

と意気込んでいたが、いざその時になると、虚脱感から何も手につかなくなってきた。そんな自分が情けなく、ブログに思いを吐き出すと、同じ病気の人から書き込みがあった。「わかります。私も焦るばかりで、心がちっとも前に進みませ

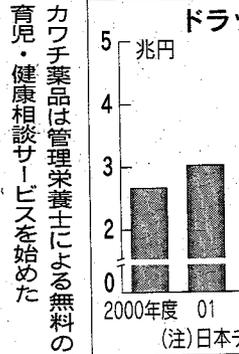
名前も顔も知らない人とながかりが持てるのはネットだからこそ。気軽に歩いたり、人と出会ったりするのが難しい患者にとって、「ネットは必要不可欠なコミュニケーションの道具なのだ」。そう気づいた時、「自分の技術を患者のために生かしたい」との思いが強くなった。

自宅兼オフィスには商品サンプルが山と積み上がる。「できるだけ普通っぽいデザインのものを作りたい」。三月下旬にブログを通じて患者からアンケートを取り、必要度の高いものを取り扱う考えだ。

最近ブログにこう書いた。「これからの人生、この(がん)の経験を決して無駄にしないようにしたい。いや、絶対に無駄にしない自信があります」。患者のための通販サイトは七月までにオープンする計画だ。

## 医療

### ドラ



### 改正薬

ってきたことが背景にある。現行制度と大きく変わるのは「登録販売者」という新たな販売資格ができることだ。受験資格は高卒以上で、一年以上の実務経験があることなど。大学の薬学部を

スクが高い分類を除いて販売できる。大衆薬の二分類に含まれるの売者を置けば、店舗はほとんどを販売すること厚生労働省は改正法

## 患者の目

二〇〇六年四月、患者と医療者が手をつなぐために「医療の良心を守る市民の会」を立ち上げた。約五十人の発起人には、医療事故被害者や遺族のほか、医療者、弁護士、一般市民、メディア関係者などがほぼ同数ずつ集まり、今までにない会となった。まだよちよち歩きであるが、多くの分野の方々と知り合い、支援、指導を得ている。

活動を通じて医療事故被害者や遺族の話を聞くと、やはり深刻である。私の著書を読んだり、講演を聞いたりした多くの方は「同じ様な対応をされた」と語りかけてくる。「何があったのか本当のことを知りたい、うそをつかないでほしい」。突然、家族を亡くした人の共通点は真相究明を第一に訴えることだ。そ

## うそをつかない医療を

して、心から謝罪をす思いをす真剣に再ほしいところ者是最初かけずに発生後、をすこんなはず実関係がている「信頼を裏でます、と、「裁判にう」などしまつたく提訴し

都立広尾